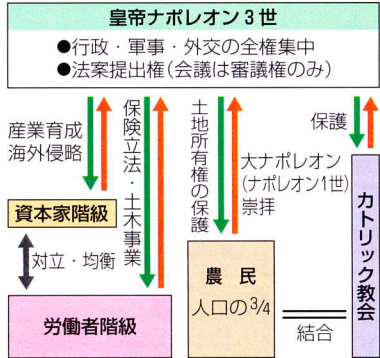


## 1 19世紀のフランス

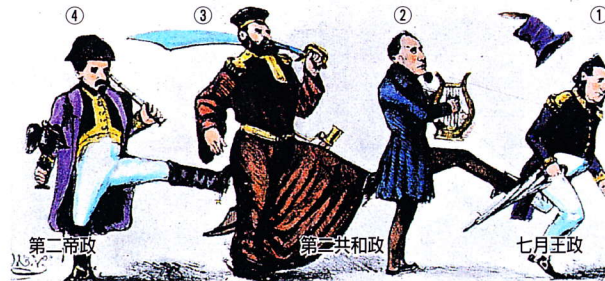
ブルボン朝復古主義	<b>ルイ18世</b> (位1814~24) 1814 ウィーン会議で王政復古が承認されて即位 1815 ナポレオンの百日天下で一時的亡命
	<b>シャルル10世</b> (位1824~30) 1825 10億フラン賠償法(亡命貴族への補償) 1830 <b>アルジェリア出兵</b> (国内危機回避のために強行)
七月王政	1830 七月革命 <b>ルイ=フィリップ</b> (位1830~48) 1830代 フランス産業革命の本格化 1831 制限選挙法制定(200フラン以上の納税者に選挙権)
第二共和政	1848. 2 二月革命 . 2 臨時政府, 国立工場(国立作業場)を設置 . 4 四月普通選挙 . 6 六月暴動 社会主義者後退 . 12 ルイ=ナポレオン, 大統領に当選 1851 1851年クーデタ 1852 ルイ=ナポレオン, 国民投票により帝政を宣言
第二帝政	<b>ナポレオン3世</b> (位1852~70) ●積極的な対外進出を展開 1853 パリ市の大改造 1853~56 <b>クリミア戦争</b> 1855 パリ万国博覧会 1856~60 <b>アロー戦争</b> (P176コ) 1858~67 <b>インドシナ出兵</b> 1859 <b>イタリア統一戦争</b> 1860 <b>サヴォイア・ニース獲得</b> ●専制帝政から自由帝政へ 1860 英仏通商条約 1861~67 <b>メキシコ出兵</b> 1870 <b>普仏戦争</b> 中, 失脚 1869 <b>スエズ運河開通</b>
第三共和政	1870 国民防衛政府成立(ガンベッタらがパリに開設) 1871 臨時政府成立(ティエールらが開設) パリ=コミュン崩壊 1875 第三共和政憲法 1881 <b>チュニジア保護国化</b> 1887~89 <b>ブーランジェ事件</b> 1887 <b>仏領インドシナ連邦成立</b> 1890 第1回メーデー (P150等) 1891 <b>露仏同盟成立</b> 1894 <b>ドレフュス事件</b> (1906 無罪に)

## ●ボナパルティズム

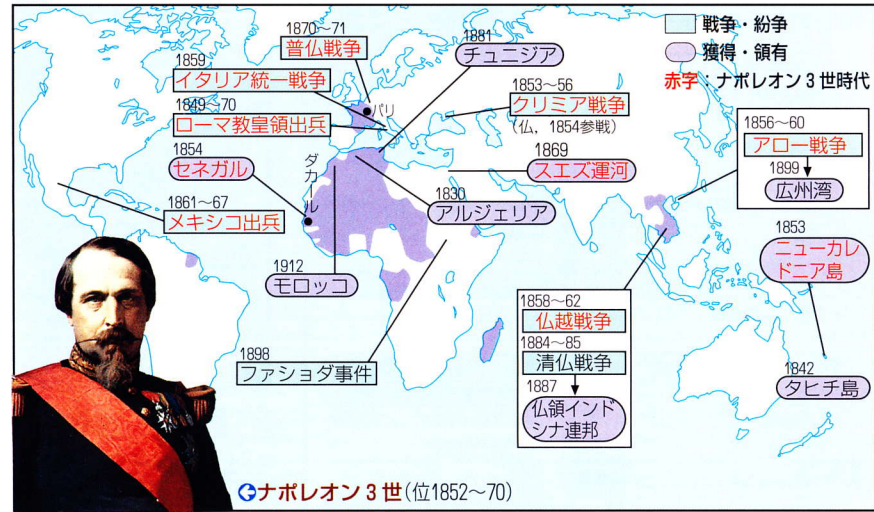


◆解説 1852年に始まる第二帝政時代は、フランス資本主義の確立期であった。ナポレオン3世は、外交政策では典型的な膨張政策をとり、数多くの戦争・外征を展開する一方、内政面では相対立する国民各階級の支持を巧妙にとりつける伯父ナポレオン1世譲りのボナパルティズムをもって君臨した。

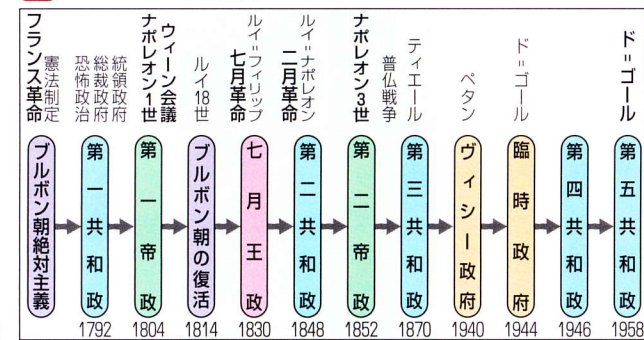
◆「つぎに来るもの」(風刺画)(第2帝政への歩み) ルイ=フィリップ(①)を二月革命で追放したラマルティエヌ(②)に続いたカヴェニャック(③)(軍人として六月暴動を鎮圧)をルイ=ナポレオン(④)が追い落としている。



## 2 フランスの対外進出(19世紀)



## 3 フランス政体の変遷



◆パリ=コミュン(1871. 3~. 5) ティエールの臨時政府がパリ国民軍の武装解除を命じたことから、パリ市民は史上初の労働者による自治政府を作り、臨時政府からの自立を宣言。ドイツ軍の支援を受けた臨時政府は13万の軍隊でパリを包囲、「血の1週間」と呼ばれる激しい市街戦の後これを圧殺した。(カルナヴァレ美術館蔵)



官位剣奪式で剣を折られるドレフュス(左)



### ◆ドレフュス事件

ユダヤ系のドレフュス大尉がドイツのスパイ容疑で逮捕され、軍法会議で終身流刑となった事件。文豪ゾラが「私は弾劾する」と述べた公開状を大統領に提出、ドレフュスは結局釈放された。軍部・右翼と共和派・左翼が対立するフランス第三共和政の不安定さを象徴し、シオニズムの発端となった。(P25)

### ◆ナポレオン3世とパリのブティック

凱旋門から放射状にのびる並木通り、近代的なアバウトマン、美しい公園など現在のパリの優雅な景観は、ナポレオン3世時代のセーヌ県知事オスマン男爵の都市改造で作られた。この時建てられたオペラ座に集まる貴婦人を対象に、ルイ・ヴィトン、ショーメ、ランセルなどの高級ブティックも開店した。

